

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

『公共施設適正配置』をマンガでわかりやすく説明



埼玉工業大学マンガ研究会
いしかわ けん
石川 賢さん

みんなが課題を
知るきっかけに

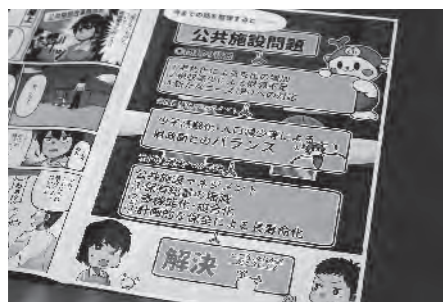
「『公共施設の課題』と言われても、正直ピンときませんでした。」こう語るのは、市の公共施設適正配置を題材にしたマンガ『いま、問われる未来のかたち』の作者である石川賢さんです。大学生である石川さんは、学業と並行してこのマンガを描き上げました。

石川さんが市の依頼を受けてマンガの作成を開始したのが、平成28年7月。はじめは、どのような視点で進めれば良いのか悩みました。そこで、石川さんは市の職員と打ち合わせをするだけでなく、実際に市内の公共施設を10カ所以上見学し、それぞれの問題や課題について説明を受けました。

「公共施設と言われても、学校や図書館、体育館くらいしか思

い浮かばなかったのですが、市役所の庁舎や公園などさまざまな施設があり、老朽化や維持管理にかかる経費の問題など、今まで考えたことがなかったことについて知ることができました。また、実際に見学したことがマンガに生かせていると思います。」と真剣な表情で語る石川さん。完成後は、大きな達成感とともに自分自身がまちを見る目も変わり、「まちに興味を持ち、大切にしようという気持ちが強くなりました。」とも話してくれました。

『公共施設適正配置』という難しい題材をわかりやすく説明したこのマンガには、石川さんの努力と工夫が詰まっています。ぜひ、ご覧ください。



▲石川さんが最も苦労したが、一番気に入っているページ。ここまでの話を整理し、解決するために『足りないもの』を考える、重要なページとなっています。

数字でみつけた!

深谷の イイトコ♡

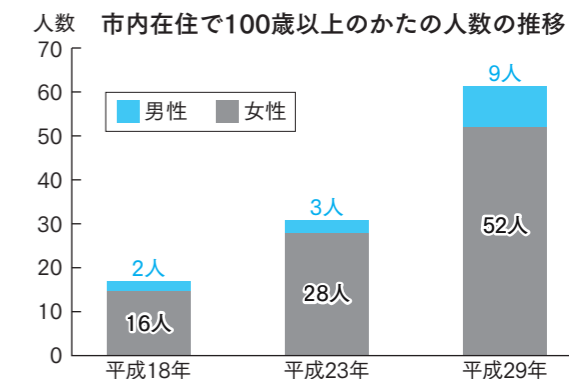


第6回 市内で100歳以上のかた

9月18日は『敬老の日』。そこで、市内在住で100歳以上のかたを調べてみました。

市内には100歳以上の男性が9人、女性が52人、合計で61人います。最高齢のかたは男性が108歳（明治42年生まれ）、女性が107歳（明治43年生まれ）です。深谷産の煉瓦が使われている東京駅が完成してから103年なので、東京駅よりも『年上』です。

今月号の特集では、介護予防について紹介しています。ぜひ、参考にして、健康に長生きできるような生活しませんか？



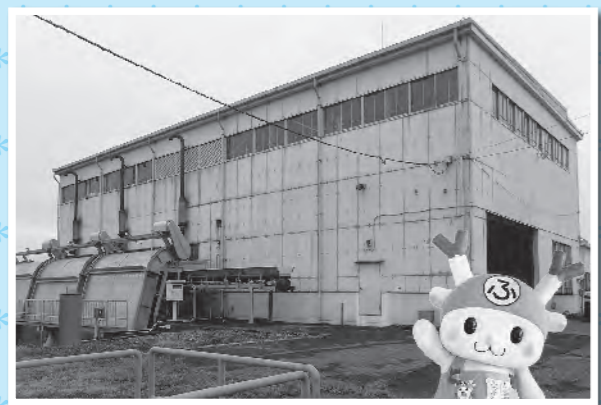
▲平成18年に市内で100歳以上のかたは男女合わせて18人でしたが、この10年ほどで61人と3倍以上になっています。

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか散歩

⑤ 豊里東部排水機場

今月は『豊里東部排水機場』を紹介するよ。ここは大雨が降った時に、豊里地区が洪水になるのを防いでいるんだって！外から見ただけだとわからないから、早速、中をのぞいてみよう～っ！



◀建物の中には、いろいろなスイッチが付いた操作盤があるよ！
排水機場では、大雨の時にはいろいろな機械を動かして、洪水にならないようにしているんだ。



▲大きいエンジン！豊里東部排水機場では、大雨の時に小山川と水路をつなぐゲートを閉じるんだ。閉じたままだと水路の水があふれちゃうから、このエンジンでポンプを動かして、洪水になるのを防いでいるんだよ。

ふっかちゃんのつぶやき
今月18日は敬老の日だよ！日ごろお世話になっているおじいちゃんやおばあちゃんに感謝の気持ちを伝えようねえY(o0w0o)Y



心の広場

豊里中学校1年(現2年)
山賀 さくらさん

高齢者が幸せに生活するには



私には祖父二人、祖母が二人おり、四人とも七十才をこえています。みなさんのまわりにも、私のようにお年寄りが身近にいる人が、沢山いるのではないのでしょうか。年をとるということはどうことなのでしょう。まだ十二才の私には想像がつかません。でも私の祖父、祖母からわかることは、年をとるにつれ病気になる、通院をくり返したり、体が弱くなっていったりすることです。

私は小学五年生のときに介護老人保健施設を訪問しました。入浴設備などを見学したり、入所している方と交流したりしました。折り紙をプレゼントしたり、入所している方と会話をしたり、一緒に「ふるさと」の合唱をしたりもしました。その中の一人の女性は、もともと一人暮らしで、手が不自由のため施設に入ったと言っていました。自宅にいた頃は、出かけることもできず心がふさぎこんでいたけれど、施設では、同じお年寄りや会話をしたり、私達のような訪問者とのふれ合い

があったりするので楽しいし、生き生きと生活ができると言っていました。このお話を聞いて私は介護してくれる方もいて、整った設備があるこんな施設が増えると、この女性のように生き生きと楽しく毎日を送れるのではないかと思いました。しかし、介護施設になかなか入所できない、介護士不足、孤独死などたびたび耳にします。社会全体がもっと高齢者が生き生きと幸せに生きられるよう施設や介護士を増やすことが大切だと思います。

先日、家族で食事に行ったとき、足の不自由なおばあさんがスロープを降りていました。しかしそこには小さな段差があり、その前でおばあさんは立ち止まっていた。その段差は、私には何とも思わない段差でも、おばあさんにとっては進むのが難しい段差だったのです。私はとっさにおばあさんの側にかけ寄り、おばあさんを支えてあげました。おばあさんはすごく困っていたようで、とても助かったという顔で、ありがとうと言って帰っていきました。せつかくあるスロープも、利用する人のことを考えて作らなければいけません。世界でもトップクラスの長寿国である日本は、もっと高齢者が生活しやすいバリアフリーにすることで、だれでも安心・安全で暮らしやすくなる意識を高めなければいけないのではないのでしょうか。私は、「いつでも相手の身になって」という気持ちを持ち、生活していきたいと思っています。